十高新聞
新潟県十日町市
新潟県立十日町
高等学校生徒会
編集発行
新聞委員会

# 今年度進路情報と在校生へのアドバイス
## ――進路指導部から

### ■進　学

今年度三年生の二月時点での志望先は［表1］の通りです。昨年度の状況とほぼ同じで、大学等志願率はおよそ7割、専門学校は3割弱です。どの道に進むにしても進学の目的を今一度明確にし、進学先ではさらに自分に磨きをかけていって欲しいと思います。

一・二年生のみなさんには目標を高く掲げ、最後まで努力を続けて欲しいと思います。そのためにはバランスのよい学習が必要です。早い段階で受験科目を絞り込むことは消極的な判断による場合が多く、その後ろ向きの姿勢が後の学習に悪影響を及ぼしたり、受験する大学を限られたものにしたりするからです。また、大学に入学後、大学で学んでいくためには、入学試験の科目に関係なく、高校で勉強する多くの科目に幅広く関心を持ち、基本的な学力（教養）を身につけておくことが必要です。

一方、専門学校は仕事に直結した知識や技術の習得に重点を置いていることから、将来の職業を具体的に考えて学校選びをすることが重要です。専門学校進学者の多くは推薦入試やAO入試で進路決定をしていますが、最近は、看護・医療系への志望者が増えてきており、なかなか進学先が決まらないという状況も出てきています。特に看護志望の人は大学受験のつもりで学科試験の準備を進めることが必要です。

### ■就　職

厳しい経済状況の中、今年も高卒求人はそれほど増えず、就職希望者にとって厳しい状況に変わりはありませんでした。今年度の内定状況は［表2］のようになっています。九月最初の採用選考を受けた人は八名。そのうち内定をもらった人は五名でした。残念ながら不採用になった三名は再度採用選考試験を受け、三名とも無事内定をもらうことができました。また、進路変更により、三名が十一月以降に採用選考を受け、結果、民間就職は十名の希望者全員が内定をもらいました。

推薦入試の面接でも同じことが言えますが、面接試験では準備してきた言葉どおりに話すのではなく、自分で納得し、自分の言葉で表現しなければなりません。伝えたいことが相手にきちんと伝わるような表現を日常の中で心掛けてください。

公務員採用試験では、県警二名、長岡市消防一名の合格がありました。しかし、採用試験は依然難関で、今年も数名の人が不合格となっています。二年生の公務員希望者は、専門学校が行っている高校生対象の公務員セミナーなどに参加して、公務員試験の傾向を知っておくこともよいでしょう。早めの対策が重要です。

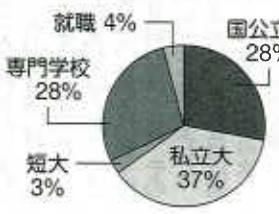
### ■センター試験について

国公立大学を志望する受験生が必ず受験しなければならないのがセンター試験です。それも五（六）教科七科目九〇〇点満点での受験が必要です。［表3］は一月のセンター試験の結果です。五（六）教科型の勉強は易しいことではありませんが、全国の受験生はそれを実行しています。十高生の中にもそれを最後までやり遂げた人が多くいたということは一・二年生も大いに見習ってもらいたいと思います。

センター試験は高校で学習したことの基礎・基本を出題範囲としており、学校の授業をベースとした日々の地道な学習が最終的によい結果を導くのは言うまでもありません。一・二年生のみなさんにはバランスよく学習することの重要さを認識してもらいたいと思います。

なお、今年は大きく制度が変更され、そのことにより、来年度のセンター試験はさらに変更する点が出てくることも予想されます。学校側から情報発信もしていきますが、自分でもしっかりしたアンテナを持って下さい。

［3年生志望状況］（2月上旬の調査）




［表1］進路別志願者数

| | 大学等 | | | | 専門学校 | 就職 | その他 | 合計 | 大学等志願率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国公立大 | 私立大 | 短大 | 合計 | | | | | |
| 男 | 53 | 81 | 2 | 136 | 34 | 9 | 2 | 181 | 75% |
| 女 | 36 | 37 | 7 | 80 | 54 | 5 | 0 | 139 | 58% |
| 計 | 89 | 118 | 9 | 216 | 88 | 14 | 2 | 320 | 68% |

［表2］2011年度 就職内定状況　（2/23現在）

| | | 民間就職 | | | | 公務員 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 販売 | サービス | 事務 | 生産・労務 | | |
| 十日町管内 | 男 | 2 | 2 | | 2 | | 6 |
| | 女 | | | | | | |
| 県内 | 男 | 1 | | | | 2 | 3 |
| | 女 | 1 | | 1 | | 1 | 3 |
| 県外 | 男 | | | | | | |
| | 女 | | | 2 | | | 2 |
| 就職数計 | | 4 | 2 | 3 | 2 | 3 | 14 |

［表3］センター試験結果の推移

| 入試年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 |
|---|---|---|---|
| 国公立文900点 | 528.4 | 558.0 | 526.1 |
| | 44 | 45 | 52 |
| 国公立理900点 | 504.0 | 496.8 | 541.9 |
| | 46 | 49 | 44 |
| 英語 | 110.4(−8.6) | 112.7(−10.1) | 101.1(−23.1) |
| | 213 | 194 | 178 |
| リスニング | 26.8(−2.6) | 22.1(−3.1) | 20.8(−3.8) |
| | 213 | 192 | 178 |
| 国語 | 108.8(+1.2) | 110.9(−0.4) | 118.9(+0.9) |
| | 155 | 142 | 149 |
| 数学ⅠA | 47.4(−1.5) | 59.9(−6.1) | 65.7(−4.3) |
| | 119 | 130 | 118 |
| 数学ⅡB | 54.8(−2.4) | 44.6(−7.9) | 45.0(−6.2) |
| | 104 | 113 | 105 |
| 世界史B | 51.8(−7.8) | 67.0(+5.5) | 55.5(−5.4) |
| | 19 | 11 | 11 |
| 日本史B | 59.8(−1.7) | 64.8(+0.7) | 61.7(−6.2) |
| | 84 | 76 | 68 |
| 地理B | 59.9(−5.2) | 60.0(−6.4) | 59.0(−3.2) |
| | 25 | 42 | 62 |
| 倫理 | 66.5(−2.2) | 63.8(−5.6) | 63.9(−5.1) |
| | 13 | 22 | 20 |
| 政治経済 | 53.1(−6.1) | 56.4(−2.6) | 60.5(+2.5) |
| | 123 | 65 | 57 |
| 物理Ⅰ | 44.4(−9.6) | 53.9(−10.2) | 64.2(−3.8) |
| | 41 | 39 | 33 |
| 化学Ⅰ | 48.4(−5.4) | 45.5(−11.1) | 55.3(−9.8) |
| | 55 | 59 | 54 |
| 生物Ⅰ | 67.9(−1.8) | 65.7(+2.3) | 61.2(−2.8) |
| | 69 | 76 | 79 |

※上段：平均点（全国との差）　下段：受験人数
※6教科900点（国公立文系型）
外国語（200・英＋リスを換算したもの）、国語（200）、数学ⅠA・ⅡB（200）、地歴（100）、公民（100）、理科（100）
※5教科900点（国公立理系型）
外国語（200・文系と同じ換算）、国語（200）、数学ⅠA・ⅡB（200）、地歴または公民（100）、理科2科目（200）
受験人数が少ないものは除いてあります。

## 各種大会成績

●クロカンスキー部
▽ユースオリンピック冬季競技大会（オーストリア）
女子5㎞C　19位　大平　麻生
女子スプリント　34位　大平　麻生
▽ノルディックJr世界選手権大会（トルコ）
男子スプリントF　60位　佐藤　友樹　62位　藤ノ木　光
男子10㎞C　26位　藤ノ木　光　28位　佐藤　友樹
男子スキーアスロン10㎞C＋10㎞F　26位　佐藤　友樹
▽全国高校総体　男子15㎞F　4位　藤ノ木　光　11位　佐藤　友樹　39位　柳　大地
女子10㎞F　4位　齋木愛里紗　5位　大平　麻生　14位　酒井　梨奈　31位　池田　綾芽
男子10㎞C　優勝　佐藤　友樹　3位　藤ノ木　光　28位　柳　大地
女子5㎞C　4位　酒井　梨奈　7位　大平　麻生　14位　齋木愛里紗　15位　池田　綾芽
男子4×10㎞リレー　2位　太島、藤ノ木、柳、佐藤
女子3×5㎞リレー　優勝　酒井、齋木、大平
学校対抗　男子2位　女子2位
▽国民体育大会　少年女子5㎞クラシカル　2位　酒井　梨奈　3位　大平　麻生　9位　齋木愛里紗
女子4×5㎞リレー　優勝　新潟県
（一走齋木、三走大平）
▽全日本スキー選手権大会
男子スプリント1.4㎞C　26位　佐藤　友樹　44位　藤ノ木　光
男子チームスプリント2×1.4㎞×3　15位　佐藤・藤ノ木
男子パシュート10㎞C＋10㎞F　12位　佐藤　友樹　16位　藤ノ木　光
女子スプリント1.2㎞C　11位　酒井　梨奈（準決勝進出）
女子チームスプリント2×1.2㎞×3　7位　齋木・大平　14位　坂詰・池田
女子パシュート5㎞C＋5㎞F　7位　大平　麻生　14位　酒井　梨奈
優勝　大平　麻生　2位　齋木愛里紗　32位　池田　綾芽　38位　坂詰　和絵
▽高校選抜スキー大会
女子5㎞C　優勝　大平　麻生　4位　酒井　梨奈　10位　齋木愛里紗　12位　坂詰　和絵　31位　池田　綾芽
男子10㎞C　23位　柳　大地
女子5㎞F　優勝　大平　麻生　2位　齋木愛里紗　5位　酒井　梨奈　17位　坂詰　和絵　21位　池田　綾芽
男子10㎞F　55位　柳　大地

●アルペンスキー部
▽中越地区高校スキー大会
男子大回転　7位　小泉健太郎　12位　河邊　元斗　19位　小島　来　20位　井之川竜也　21位　樋口　礼生
女子大回転　6位　倉澤　里佳
男子回転　7位　河邊　元斗　9位　小泉健太郎　16位　井之川竜也　18位　柳　宏征　19位　樋口　礼生
21位　村山　翔太　23位　小島　来　28位　樋口　礼生　30位　井之川竜也　31位　村山　翔太
女子回転　5位　倉澤　里佳
▽県高校総体スキー大会
男子大回転　11位　小泉健太郎　17位　河邊　元斗　25位　小島　来　28位　井之川竜也
女子大回転　25位　樋口　礼生　27位　井之川竜也
女子回転　11位　倉澤　里佳
▽県スキー選手権大会兼国体予選
男子大回転　13位　小泉健太郎　19位　河邊　元斗　20位　樋口　礼生　24位　井之川竜也　29位　柳　宏征
女子大回転　23位　樋口　礼生　25位　小島　来　27位　井之川竜也
女子回転　11位　倉澤　里佳
▽県スキー選手権大会兼国体予選
男子大回転　21位　柳　宏征　23位　樋口　礼生　25位　小島　来　28位　井之川竜也　30位　樋口　礼生　31位　村山　翔太
女子大回転　16位　倉澤　里佳
男子回転　11位　小泉健太郎　21位　柳　宏征　23位　樋口　礼生　25位　小島　来　27位　井之川竜也
女子回転　11位　倉澤　里佳
▽県高校総体スキー大会
男子大回転　11位　小泉健太郎　17位　河邊　元斗　25位　小島　来　28位　井之川竜也　30位　樋口　礼生　31位　村山　翔太
女子大回転　16位　倉澤　里佳
男子回転　5位　倉澤　里佳
▽県高校総体スキー大会
女子大回転　11位　小泉健太郎　17位　河邊　元斗　25位　小島　来　28位　井之川竜也
女子回転　5位　倉澤　里佳
▽全日本Jrスキー選手権
男子スーパー大回転　35位　小泉健太郎
女子スーパー大回転　28位　倉澤　里佳
▽全日本選抜Jrスキー選手権大会
男子スーパー大回転　24位　小泉健太郎
女子スーパー大回転　31位　倉澤　里佳
目標のインターハイ、国体には残念ながら出場できませんでしたが、全日本ジュニアスキー選手権大会のほか、河邊元斗、小泉健太郎が富良野の全国高等学校選抜スキー大会に出場しました。

●男子バスケットボール部
▽BSN杯
二回戦　十日町108－69三条商業
三回戦　十日町77－74五泉
四回戦　十日町50－62上越総合技術
大会では初戦から自分たちのプレーができず、苦しい試合が続きました。前半は集中して足を動かして自分たちの流れにのっても、後半で最後まで集中が続かず追い上げられることがありました。これからの課題としては、相手がどこであろうと二試合最後まで集中して声をかけ合うことだと思いました。来年度の県総体に向けて、課題を克服できるように頑張ります。

●女子バスケットボール部
▽BSN杯　一回戦　十日町50－88新潟商業
今回の大会では、試合の入りが悪く、試合の初めから終わりまで自分たちのペースをつかむことができませんでした。そして、たくさんの課題が残る大会となってしまいました。しかし今回は自分たちでモチベーションを作っていく大切さを学びました。次の大会に生かして、頑張ります。

●男子ソフトテニス部
▽県高校選抜大会
一回戦　十日町1－2白根
●空手道部
▽全国選抜北信越予選
男子団体形　第5位　阿部　強志、春日　数紗　林　龍太郎、庭野　賢太　吉野　航矢、水落　勁介　大津　尚貴
男子団体組手　ベスト16　阿部　強志、春日　数紗　阿部　貴大、林　龍太郎　髙橋　寛行、入澤　匡佑　神林　健太、星名　雅哉　綱　将希
女子団体形　第5位　松澤　遥香、田村　祐希　水落　友紀、小林　萌夢　髙波　紗也、本山　蓮　布施　萌香
男子個人形　春日　数紗
全校選抜大会へ
男子個人形の春日数紗は3月26日～28日にかけて岡山・桃太郎アリーナで行われる「第31回全校高等学校空手道選抜大会」（JOCジュニアオリンピックカップ）へ出場します（15年連続27回目）。応援いただき、ありがとうございます。
部員は現在、全国大会へ向け、練習に励んでいます。

●バレーボール部
▽県1・2年生大会
一回戦　対新潟南　0（18－25　16－25）2

●書道部
▽全日本高校書道コンクール
全日本高校書道教育研究会賞　佐藤　愛美
優良賞　小杉　咲月　〃　徳永　沙樹
佳作　伊藤　愛　〃　太田　帆南　入選　村山　洋子　小口　模那　中嶋　花純　福原さつき

●吹奏楽部
▽吹奏楽コンクール県大会
高A　金賞　▽〃　西関東大会
高A　銀賞
課題曲　マーチ「ライヴリーアヴェニュー」
自由曲　ラッキードラゴン～第五福竜丸の記憶～
堀田庸元作曲
福島弘和作曲

## 先生訪問

### 鈴木清子 先生

**Q　なぜ先生になったのですか？**

美大卒業後は会社に勤めていましたが、その後は美術とは関係ない仕事に就きたいと思ったり、自分に教師なんてできるのかなと思ったり、正直いろいろ迷いながら教師になりました。今は生徒の作るおもしろい作品、素敵な作品に出会えた時は嬉しいですし、それをどんなふうに展示しようかとあれこれ考えるのがとても楽しいです。

**Q　どんな高校生でしたか？**

部活動中心の毎日でした。先輩方がインターハイで準優勝したのを見て感化され、「よし、自分たちも」と毎日練習に励みました。練習後は学校前のパン屋さんで大好きな〝コロッケサラダ〟を食べ、家でも夕食を食べ、今と違いどんなに食べても太らない高校生でした。

**Q　十高生の印象はどうですか？**

授業や部活動での作品は、色のきれいなものやアイデアの面白さに思わず自を止めてしまうものが多いです。美しい雪景色や季節の移り変わりを子供の頃からあたりまえのように見てきたからでしょうか。通勤途中、写真を撮りたい衝動にかられます。

**Q　十高生へ一言お願いします。**

何か必死になって取り組めるものがあるといいと思います。一生懸命やって成功でも失敗でも、そこから得るものは多いはず。そこからどう向き合う(生きる)かだと思っています。頑張れ十高生!!

# 卒業によせて

校長
上村栄市

「蛍の光　窓の雪　文読む月日　重ねつつ…」この歌詞は「蛍雪の功」の故事に由来しています。中国の晋の時代に、車胤と孫康という二人の若者がいました。二人の家は共に貧しく、明かりをつける油を買う金がありませんでした。そこで車胤は、夏の夜に数十匹の蛍を絹の袋に入れ、その明かりで本を読みました。一方孫康は、冬の夜には雪明かりで勉学に励みました。その努力が功を奏して、二人は後に高級官吏になりました。この故事から、「蛍雪」は苦労して勉学に励むこと、そして、それによって成し遂げた成果を「蛍雪の功」と言うようになりました。

また、「出藍」という言葉を聞いたことがあると思います。出典は荀子の勧学篇の一節「青出于藍而青于藍（青は藍より出でて藍より青し）」です。青色の染料は藍という草から作られるが、その色は藍よりも更に青い、つまり元の物よりもそれから出来た物の方が優れている様を現しています。このことから、弟子が学問に励んで師を越えるような立派な業績をあげるようになることを「出藍の誉れ」と言うようになりました。

「蛍雪の功」や「出藍の誉れ」は、今ではあまり聞かれなくなってしまいましたが、以前は卒業を祝い、今後の成長を願う言葉として広く使われてきました。中国の悠久の歴史を経て今日に伝わる名言ですので、是非覚えておいてほしいと思います。

蛍雪の功あってめでたく卒業の栄冠を手にされた皆さんおめでとう。これからも精進を重ね、出藍の誉れとなることを期待しています。

1組担任
山岸　修

中学を卒業したばかりの君たちと出会ったのは三年前。早速、入学前の全体指導では厳しい表現も使われてはいたが、正しいことに自信を持って行動できる集団を目指し、当たり前の社会性を身につけながら進路実現を目指していく強い覚悟を持たせた。同時に、自分自身も同じ意識を持って、君たちと接し、指導していく覚悟を決めた瞬間だった。そこからすべては始まった。各学年で掲げた目標はすべての行動の指針となった。

時間厳守。担任団もこの指導を徹底すべく努力していた。そんな中で、三年間毎朝発行してきた学年通信は、「朝の始動スイッチ」としての役割も大きかったと思う。ただ、個人的には自分の順番をこなすことがとても大変ではあったが…。

二年次、進取。学業や行事、部活動等での二年生としての活躍を期待した。

そして、成。三年間の集大成としての高校生活。そしてこの新聞が発行される今でも、最後まで進路実現を目指している生徒を応援している気持ちは変わらない。諦めずに是非頑張ってもらいたい。

振り返れば、自戒を込めた様々な話を思い出す。

自分を大切にするということは、他者を大切にすることから実現できる。

目標は実現するために持ち、環境の中で常に変化し、一つだけとは限らない。成功している人は、必ずどこかで努力をしている。

最後に、この三年間は、自らを律しながらの説教と、生徒たちへの期待と、多くの人への感謝の日々であったと実感している。

では卒業生へ最後の一言。

周囲への感謝の気持ちを常に自覚し、社会性を発揮しながら大いに飛躍すべし。

卒業おめでとう。

2組担任
山川みゆき

「なぜ人間になれたのか」というタイトルに惹かれ視聴したテレビ番組で、こんなことが言われていました。今の人類と最後に枝分かれしたネアンデルタール人の脳は大きさも現在の人間とほぼ同じ、槍の先につける石器も私たちの祖先と全く同じようなものを作っていました。それどころか体格も良くて力もあり、寒さにも強いなど体力的には優位な点もあったのです。それなのになぜ絶滅したのか…。

氷期が訪れると、他人との交流を持たないネアンデルタール人は地球上から姿を消しました。彼らと違い槍を遠くまで飛ばす道具を使っていた私たちの祖先は小動物を捕らえることもできましたが、それでも人口のほとんどが死んでゆくと血族を超えた協力が始まったといいます。わずかな食料も独り占めせず、他人と分け合い協力し合った方が生き残ったのです。このようなことは、例えば1個のおにぎりを4人で分け合ったという、東日本大震災の被災者の間にも見られた行為ですね。

また、ある映画では、天国と地獄がどのようなところかが語られる場面があったのですが、ここでは地獄は穏やかなところで、おいしそうなごちそうが並んでいます。ところが与えられた箸は2mもあり、口に運ぶことができません。ごちそうを目の前にして食べることができない地獄です。一方、天国も同じように心地よい空間でたくさんのごちそうが並んでいます。箸も同じく2m。しかし天国では、その長い箸を使って互いに食べさせ合うのです。

人類は、太古の昔から互いに支え合って生き延びてきました。見ず知らずの他人と協力できることは私たち人間に備わった能力なのです。この先どんな道を進もうとも、〝天国〟は、以外と自分の近くにあるかも知れません。

3組担任
曽我秀一

突然ですが、先日高校時代の親友から、十日町の現場で4月まで住み込みで働くことになったという電話をもらいました。すごい縁だなあと思いましたが、早速十日町で一杯(いっぱい)やりました。

私の高校時代は、クラス変えがなく、三年間同じ担任とクラスメイトでした。担任はとても厳しい先生でしたが、時折見せるジョークに苦笑いしていたのを憶えています。工業高校ということもあり、すでに就職を考えている者や、工業大学への進学を考えている者、部活で一花咲かせようとしている者など様々な生徒がいました。登校後は作業着に着替え、測量計をのぞいたり、図面を書いたり、コンクリートを作ったりもしました。体育授業では、ラグビーのためにラガーシャツとヘッドギアも買わされました。体育祭は十高のような華やかさというよりは、男臭い根性祭のようで、特に応援合戦では何かの替え歌や、踊りがあるわけではなく、伝統的に受け継がれた各科の応援歌を単純な振り付けを繰り返しながら、どれだけ大きな声で歌えるかが勝負でした。部活では、練習はとても厳しく、毎日大変でしたが、好きでやっていたことなので全く苦ではありませんでした。それよりも、ここでは話せないような無茶苦茶な部のルールや、恐ろしく怖い先輩との理不尽な上下関係の方が強烈に鮮明に残っています。

そんな高校生活でしたが、そこで得た濃い経験や人間関係は、今の私にとって大切な財産となっています。

三年生の皆さん、これまでの、そしてこれからの経験と出会いを大切に、毎日を過ごしていってください。

卒業おめでとうございます。

4組担任
神林　明

三年間で人権同和教育が合計八回あった。一年生の一回目で藤井輝明さんのことを紹介した。彼の顔を拡大した写真も見せたので記憶に残っていると思う。

海綿状血管腫という先天的な病気によって右目の周りから右頬や唇にかけて赤く膨らんだアザがある。子供の頃は「やーい、化け物」とからかわれるなど心無いイジメに遭い、傷付いた。今でも電車の中などでジロジロ見られることがよくあるし、定期的な治療や投薬も続けている。

イジメや病気に負けたくないという強い気持ちを常に持ちながら、並々ならぬ努力をした。そして現在は熊本大学医学部看護学科の教授として活躍している。

藤井さんは著書の中でこう書いている。「血管腫があるおかげで、病気で苦しんでいる人の気持ちがわかるようになりました。看護や医療の世界に進んだのも血管腫を患っていたからこそです。病気だから不幸だということは決してなく、病気から学ぶべきこともたくさんあるのです。むしろ顔のアザはセールスポイントで、血管腫はひとつの個性だと思っています。」

ものすごいプラス思考だと思った。この本を読んでいると、病気だからこそ出会えた人がたくさんいて、経験できたこともあったということは理解できる。それにしてもだ。

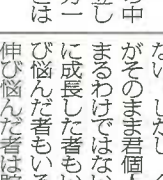
もちろん、くじけそうな時にずっと支えて励ましてくれた両親への感謝の気持ちも忘れていない。

この本のタイトルは『この顔でよかった～コンプレックスがあるから人は幸せになれる～』である。

冷静に考えてみると確かに、完璧な人間などひとりもいないし、完璧な人生はありえない。だからこそコンプレックスや弱点、失敗や挫折をいかにプラスにするかが大切だということを痛感した。

「生まれ変わってもまた"血管腫のある藤井輝明"がいいなと本音で思っています。」と結んでいる。

藤井さんのような考え方や生き方もあるということを知っておこう。



5組担任
吉田悦子

卒業おめでとうございます。

四月、新しい生活が始まります。新しい出会いがたくさんあることと思います。

年をとり、人との出会いは自分にとって財産だと思えるようになってきました。いつか読んだ評論文に書かれていた内容です。

「人は人との関係性の中で自分というものを確立していくものであり、自分一人で自分探しをすることはできない。」

高校生活の中で、卒業後自分は何をしたいのかと悩んだ人も多いと思います。自分にはやりたいことがない、どうすればいいのかと思っている人も少なからずいたでしょう。また、これから先、このような悩みを再び抱える人も多いはずです。

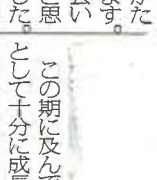
「自分は何者か、何がしたいのか」という問いには無数の答えが存在し、そのどれもが正解と言い切れないでしょう。そのようなたった一つの正解がない問いに、自分だけの答えを見つけ出そうともがき苦しむ時には、多くの人と関係することが大切なのではないでしょうか。誰かが答えを教えてくれるということではありません。関係の中に答えのヒントが隠れていたりするのだと思います。また、苦しみの中の癒し、楽しみかもしれません。

たくさんの人と話して下さい。好きな人だけでなく、さまざまな人と関わりあいましょう。正直に言えば、私自身人付き合いがあまり得意ではなく、これは自分自身への言葉でもあります。人付き合いが苦手な人、ともにがんばりましょう。

そしてもう一つ。積極的に出会って欲しいのは、本です。

私にとっては、娯楽、癒し、学びと様々な意味合いを持っています。単純に自分自身が楽しいと思えることなので、おすすめします。

素晴らしい出会いがたくさんありますようお祈りしています。



6組担任
長谷川善明

この期に及んで学年全体として十分に成長してきた君たちに言うことはまるまりない。しかし、全体の成長がそのまま君個人に当てはまるわけではない。飛躍的に成長した者もいれば、伸び悩んだ者もいるからだ。伸び悩んだ者は貯めた分これから飛躍できる。急伸できた者は頭打ちにならないようにしたい。そして数年後、いい大人になっている君たちに会えることが今から楽しみだ。

さて、話は変わるが3年前の私は正20面体にハマっていた。しかし、正直少し難しかったのでやや遠ざかった状態が続いている。変わって今はペル方程式なるものがホットだ。これは $x^2-ay=1$ ($a$は整数)

の整数解を求めるというもので、例えば $a=8$ のときは $(x,y)=(2,1),(7,4)$ などが、$a=5$ のときには $(x,y)=(9,4)$ などが解となる：

$2^2-3\cdot1^2=1,\ 7^2-3\cdot4^2=1,$

$9^2-5\cdot4^2=1$

一見簡単そうに見える上に、この方程式自体がパズル的で何か深い意味があるのかさえも疑問に思える。ところが、$a=13$ のときには整数 $(x,y)$ がなかなか見つからない。また、数列の漸化式や連分数の計算と関連があったり、次のように特徴的な因数分解の問題を作るのに役に立ったりする：

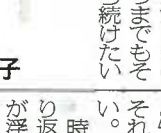
$4x^2+5x-6=$

$12x^2+13x-14=$

$33x^2+34x-35=$

こんなことを書いているが、実は私はペル方程式のことがよくわかっていない。既に理論が確立されているので、新しい発見は期待できない。世の中では既知であっても自分にとっては未知の問題なのだから、何かを発見できないかとアタックしている。そして、いつかは正20面体も…。

数学に限らず、なかなかできないことだからこそ、できるようになったときの喜びは格別。いつまでもそういう感覚をもち続けたいと思っている。



7組担任
小島由美子

三十代の頃、出会った本の中に「点と線」について書いてあった。「線」を作り出すのが「点」であり、「点」の積み重ねが「線」を成す。「点」が想い出や経験であり、時の流れとともに記憶から消えていく「点」もあるが、いくつかの「点」を「線」で結んでいくと自画像が浮かんでくるといった内容だった。

作者は六十歳を迎えて、過ぎ去った昔を振り返り消えずに「点」となり心に存在している想い出をひとつひとつなぞっていく。どんな自画像が現れたのだろうか。

私の高校時代は夢の実現に向かって真っ只中にいた。新潟県に戻り、体育の教師になる事が全てだった。それしか見えてなく、通過点と決めたインターハイ、国体出場を目指して、ただがむしゃらに練習していた。練習環境が良くなかったため、全てが夢中だった。努力した、不安だった。周りが何も見えてなかったと今は感じる。それでも楽しかった。充実していた。この時期は自分の自画像を描く時の大きな「点」である。

時が経ち年月を重ねるたびに「点」ができ、その点が「線」を作り出す。

みんなと過ごした三年間は私の教師生活の終わりの大切な「点」となった。特に最後の一年間はもっともっと大切にしたかったが時は早かった。いつも三学年のみんなからはエネルギーをもらい、元気でいられた事に感謝している。みんなにとって高校時代は濃くて大きな「点」であると確信する。

これからの人生、「点」を作り出すべく沢山の知恵と知識と希望を宝物とし、それぞれの道に進んでほしい。

時が経ち人生の節目に振り返った時、どんな自画像が浮かぶだろうか。後悔のない満足感溢れる穏やかな笑顔であってほしいと願う。

私も新たな出発をする。大きな一歩を踏み出しみんなに負けないよう新たな自画像を描くために。

8組担任
山田　勉

みなさんは正しい直線を描くことはできますか。私にはできません。

おそらくここで思い描いたのはノートなどに描かれた線だと思いますが、両端に限りがある線は厳密には「線分」です。「直線」とは無限遠方まで続く線のことを言うので、紙に限りがある以上、誰にも正しい直線を描くことはできません。

しかし、直線を認識することはできます。線を引き、これを「直線だ」と言えばそれは直線になります。つまり我々は直線を紙上ではなく、頭の中に描いています。我々の頭は、不可能と思えることでも、簡単に想像できる無限の力を秘めているのです。

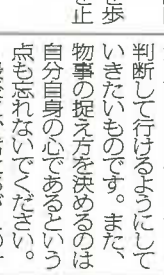
ジュールヴェルヌは「人が想像できることは、人が必ず実現できる」と言っています。人間の頭が無限の可能性を秘めているのならば、人が実現できることも無限の可能性を秘めているはずです。

卒業生のみなさん。入学当時思い描いていた無限の可能性を今はどれだけ実現できたでしょうか。この三年間を振り返って、後悔しろと言いたいのではありません。反省すべき部分があるのであれば、ぜひ次に生かして欲しいのです。

みなさんの人生はここで終わりではありません。むしろこれからです。今に甘えず、常に上を見続けて生きて、大きな人間になって欲しい。人はあきらめさえしなければ無限の可能性を秘めています。自分の可能性をつぶすのも磨くのも紛れもない自分なのです。

未筆ながら、在校生のみなさんも今を大切にしてください。進路の夢があるのなら、それに伴った努力をしてください。模試は嘘をつきません。模試で結果を出せない者は本番でも結果は出せません。今なら時間はあります。

無限に続く直線の上を歩くがごとく、その歩みを止めず前進してください。



9組担任
高橋賢政

卒業おめでとう。縁あって私は君たちが入学すると同時に十日町高校へ赴任しました。赴任と共に、十日町市民ともなりました。現在市民となって3年ですが、このような雪国に住むというのは初めての経験でした。

私はもともと雪やスキーがかなり好きであったこともあって雪に対して良い思いしか持っていませんでした。しかし、この3年間毎年大雪に見舞われ、屋根の雪下ろしや毎朝の雪掘りを経験し、雪害も目にして、雪というものの大変さも強く感じました。では雪が嫌になったかというとそんなことはありません。大変ではあるけれど、雪そのものの美しさ、神秘というものはそれに負けないぐらい大きなものであると思っています。以前学年通信にも書きましたが、松代在住の建築家カールベンクス氏は雪化粧をした冬景色がとても美しく、住むことを決意したそうです。逆に言えば雪が無ければ住むことはなかったということになります。雪にはそんな、一人の人間の心を動かす力も秘められているのです。

物事には何でも良い面、悪い面の二つの側面があります。良い面ばかり見て、悪い面を見ない、逆に良い面に目を向けず、悪い面ばかり見てしまう、どちらも正しく物事を捉えたことにはなりません。いずれの面もしっかり捉えてこそ、正しく捉えたことになるのだと思います。ともすれば、思い込みが先行して、反対の面を見られなくなってしまいがちですが、両面をきちんと見た上で、自分自身はその物事をどう捉えるのかということをしっかりと判断して行けるようにしていきたいものです。また、物事の捉え方を決めるのは自分自身の心であるという点も忘れないでください。

最後に、君たちがこの十日町高校という環境で学んだことを誇りに思い、新たな人生に向って進んでいくことを願っています。